

平成 26 年 9 月 5 日
日本原燃株式会社
東北電力株式会社
東京電力株式会社
リサイクル燃料貯蔵株式会社

(公財) 地震予知総合研究振興会
平成 26 年度 第 1 回
下北半島東部の地質構造に関する検討委員会

概要報告

1. 日時 平成 26 年 8 月 20 日 (水) 13:30～16:10

2. 場所 如水会館 富士の間 (3 階)

3. 出席者

主査	千葉大学 名誉教授	伊藤 谷生 (構造地質)
委員	山口大学大学院 教授	金折 裕司 (構造地質)
	海洋研究開発機構 センター長代理	高橋 成実 (地殻構造)
	高知大学 特任教授	徳山 英一 (海洋地質)
	産業技術総合研究所 研究グループ長	阿部 信太郎 (地殻構造)

(敬称略)

事業者 東北電力株式会社 東京電力株式会社
日本原燃株式会社 リサイクル燃料貯蔵株式会社
事務局 公益財団法人 地震予知総合研究振興会

4. 議題

- (1) 平成 25 年度 第 3 回議事録確認 (事務局)
- (2) 平成 26 年度 第 1 回検討委員会への主な話題提供について (事業者)
- (3) 大陸棚外縁の海上ボーリングについて (事業者)
- (4) 海陸統合探査の高度解析について (事業者)
- (5) その他 (事務局)

5. 配付資料

資料 1 平成 25 年度 第 3 回 議事概要 (案)
資料 2-1 平成 26 年度 第 1 回検討委員会への主な話題提供について
資料 2-2 大陸棚外縁の海上ボーリングについて
資料 2-3 海陸統合探査の高度解析について

6. 議事概要

主査の議事進行により、平成25年度第3回検討委員会の議事録の確認がなされた後、事業者から以下2項目について話題提供があった。

- ・大陸棚外縁の海上ボーリングについて
- ・海陸統合探査の高度解析について

今回の検討委員会では、大陸棚外縁における地質データの拡充を目的に、平成26年4月～5月にかけて事業者が共同で地球深部探査船「ちきゅう」を活用して実施した海上ボーリングが、本委員会の検討テーマである「下北半島東部の地質構造」の検討において有用な地質情報となることを踏まえて、委員会に対しボーリング結果の現在の分析状況について話題提供があった。

また、平成25年度第3回委員会においてコメントがあった、海陸統合探査データの高度解析に関する事業者の解析結果および結果を踏まえた地質構造解釈について話題提供があった。

これに対し、各委員から、データの分析および解析におけるアドバイスおよび留意点、ならびに結果および解釈に対するコメントが述べられた。

各委員からの主なコメントは以下のとおり。

- 今回、ボーリングにより、大陸棚外縁の海底における地質情報を直接把握することができたことは大きな成果である。
- ボーリングから得られた各種地質情報を引き続きしっかり分析するとともに、ボーリングに合わせて実施した高分解能な海上音波探査データを対比することにより、地層の層序関係をしっかり分析することが必要である。
- ボーリングコアの性状に応じた分析方法や音波探査データから、より高分解能な情報を抽出する手法についても取り組んでみるとよい。
- 海陸統合探査の高度解析により、地下深部の地質構造の解明精度が高まったものと考えられる。
- 地下の速度構造を求める際の手法や初期条件について、それらが速度構造の最終結果に大きく影響を与えていないことを確認した上で、海陸統合探査の最終的な深度断面に対する地質解釈に取り組むべきである。

以上